

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5 第1項の表の第1号
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2026年2月12日
【中間会計期間】	第64期中(自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
【会社名】	株式会社三ツ知
【英訳名】	Mitsuchi Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 下元守
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市牛山町1203番地
【電話番号】	0568-35-6350(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 村越康幸
【最寄りの連絡場所】	愛知県春日井市牛山町1203番地
【電話番号】	0568-35-6350(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 村越康幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第63期 中間連結会計期間	第64期 中間連結会計期間	第63期
会計期間	自 2024年7月1日 至 2024年12月31日	自 2025年7月1日 至 2025年12月31日	自 2024年7月1日 至 2025年6月30日
売上高 (千円)	6,303,245	6,185,237	12,411,996
経常利益 (千円)	191,809	168,707	174,560
親会社株主に帰属する 中間純利益又は 親会社株主に帰属する 中間(当期)純損失() (千円)	2,056	140,255	117,318
中間包括利益又は包括利益 (千円)	113,311	399,822	63,421
純資産額 (千円)	10,019,665	10,009,277	9,647,152
総資産額 (千円)	16,032,839	15,932,578	15,858,257
1株当たり中間純利益又は1株当た り中間(当期)純損失() (円)	0.41	30.05	23.45
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.5	62.8	60.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	362,484	505,477	885,795
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	266,389	67,168	521,591
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	289,622	549,579	356,844
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	3,774,214	3,958,973	3,988,737

- (注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
ありません。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、第63期中間連結会計期間及び第63期は1株当た
り中間(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、第64期中間連結会計期間は潜在株式が存
在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当中間連結会計期間における世界経済は、米国経済が底堅く推移したものの、インフレの長期化及び各国の金利政策に伴う不安定な為替変動に加え、中国経済の成長鈍化、地政学リスクの高まり等により、先行き不透明感が継続し、不安定な状況が続きました。

当社グループの主要取引先であります自動車部品業界におきましては、北米においては生産台数が底堅く推移したもの、関税措置や部材コスト上昇の影響により、部品メーカー間での価格交渉や調達面の負担が継続しました。中国では生産台数が増加傾向にある中、引き続き日系メーカーの販売シェア低下傾向が継続しました。一方で日本国内及び東南アジア地域では生産台数が前年同期を下回る傾向で推移するなど、地域ごとに市場環境が異なる推移となりました。こうした市場環境下で、当社の受注環境も依然として厳しい状況が続きました。

このような経営環境の中、当社グループでは、未来を「つなぐ」技術で世界中の人と想いを「つなぐ」を新たな経営理念として、中期経営計画「ビジョン24」の2年目をスタートいたしました。

この結果、当中間連結会計期間における当社グループにつきましては、売上高は61億85百万円（前年同期比1.9%減）となりました。利益面につきましては、原価低減に努めたものの、営業利益は43百万円（前年同期比66.8%減）となりました。為替差益の影響により、経常利益は1億68百万円（前年同期比12.0%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は1億40百万円（前年同期は2百万円の親会社株主に帰属する中間純損失）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

日本

得意先からの受注が減少したことにより、売上高は45億95百万円（前年同期比2.8%減）となりました。利益面につきましては、経費削減に努めましたが、59百万円の営業損失（前年同期は3百万円の営業損失）となりました。

米国

得意先からの受注増加により、売上高は8億17百万円（前年同期比15.5%増）となりました。利益面につきましては、経費削減に努めましたが、48百万円の営業損失（前年同期は23百万円の営業損失）となりました。

タイ

得意先からの受注増加により、売上高は13億43百万円（前年同期比8.6%増）となりました。利益面につきましては、経費削減に努めた結果、営業利益は1億91百万円（前年同期比20.2%増）となりました。

中国

得意先からの受注が減少し、売上高は71百万円（前年同期比55.6%減）となりました。利益面につきましては、経費削減に努めましたが、28百万円の営業損失（前年同期は9百万円の営業損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ29百万円減少し、39億58百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費 3億16百万円、売上債権の減少額 2億63百万円等による資金増があり、一方で棚卸資産の増加額 2億1百万円等による資金減により、5億5百万円の収入（前年同期比39.4%増）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入 4億16百万円等による資金増があり、一方で定期預金の預入による支出 1億62百万円、有形固定資産の取得による支出 2億70百万円等による資金減により、67百万円の支出（前年同期比74.8%減）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出 2億58百万円、短期借入金の減少額 2億円等の資金減により、5億49百万円の支出（前年同期比89.8%増）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当中間連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当中間連結会計期間の研究開発費の総額は 3百万円であります。

なお、当中間連結会計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【重要な契約等】

当中間連結会計期間において、重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2026年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,304,040	5,304,040	東京証券取引所 (スタンダード市場) 名古屋証券取引所 (メイン市場)	単元株式数は100株 であります。
計	5,304,040	5,304,040	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2025年7月1日～ 2025年12月31日	-	5,304,040	-	405,900	-	602,927

(5) 【大株主の状況】

2025年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
名古屋中小企業投資育成株式会社	名古屋市中村区名駅南一丁目16番30号	800	17.11
野田 正英	愛知県瀬戸市	275	5.89
箕浦 義彦	名古屋市千種区	210	4.49
箕浦 智康	名古屋市名東区	207	4.44
箕浦 仁	京都府長岡京市	206	4.42
池谷 真理子	愛知県瀬戸市	204	4.36
石黒 いづみ	愛知県尾張旭市	204	4.36
小野 実喜子	愛媛県今治市	204	4.36
箕浦 信彦	名古屋市守山区	194	4.16
阿知波 珠美	愛知県瀬戸市	142	3.04
計		2,647	56.62

(注) 上記のほか当社所有の自己株式627千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 627,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,673,700	46,737	-
単元未満株式	普通株式 2,740	-	-
発行済株式総数	5,304,040	-	-
総株主の議決権	-	46,737	-

(注)単元未満株式には、当社所有の自己株式48株が含まれております。

【自己株式等】

2025年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式 数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社三ツ知	愛知県春日井市牛山町1203番地	627,600	-	627,600	11.83
計	-	627,600	-	627,600	11.83

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2025年7月1日から2025年12月31日まで）に係る中間連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,953,411	4,695,126
受取手形及び売掛金	1,812,036	2 1,697,625
電子記録債権	614,224	2 483,772
棚卸資産	1 2,696,542	1 2,929,857
その他	276,489	252,577
流動資産合計	10,352,704	10,058,960
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,336,172	1,315,860
機械装置及び運搬具（純額）	1,618,510	1,497,781
土地	1,590,458	1,598,713
リース資産（純額）	50,673	75,783
建設仮勘定	52,074	224,416
その他（純額）	115,944	118,227
有形固定資産合計	4,763,832	4,830,782
無形固定資産		
その他	100,912	180,504
無形固定資産合計	100,912	180,504
投資その他の資産		
投資有価証券	306,747	455,134
その他	334,059	407,195
投資その他の資産合計	640,807	862,329
固定資産合計	5,505,552	5,873,617
資産合計	15,858,257	15,932,578

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	855,626	855,483
電子記録債務	759,277	2 796,408
短期借入金	2,000,000	1,800,000
1年内償還予定の社債	50,000	25,000
1年内返済予定の長期借入金	492,977	417,799
リース債務	32,585	35,302
未払法人税等	80,651	93,907
賞与引当金	4,378	3,638
その他	563,721	635,618
流動負債合計	4,839,218	4,663,157
固定負債		
長期借入金	908,527	723,032
リース債務	124,726	141,499
役員退職慰労引当金	51,024	918
退職給付に係る負債	115,187	139,347
その他	172,420	255,345
固定負債合計	1,371,886	1,260,142
負債合計	6,211,104	5,923,300
純資産の部		
株主資本		
資本金	405,900	405,900
資本剰余金	604,430	604,417
利益剰余金	7,655,096	7,748,728
自己株式	406,789	397,851
株主資本合計	8,258,637	8,361,195
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	88,838	189,812
為替換算調整勘定	1,299,676	1,458,269
その他の包括利益累計額合計	1,388,515	1,648,081
純資産合計	9,647,152	10,009,277
負債純資産合計	15,858,257	15,932,578

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
売上高	6,303,245	6,185,237
売上原価	5,206,192	5,210,529
売上総利益	1,097,053	974,708
販売費及び一般管理費	1,965,474	1,931,070
営業利益	131,578	43,637
営業外収益		
受取利息	9,030	7,992
受取配当金	3,676	4,796
為替差益	-	54,382
その他	88,930	80,085
営業外収益合計	101,637	147,256
営業外費用		
支払利息	11,400	16,524
その他	30,006	5,662
営業外費用合計	41,406	22,187
経常利益	191,809	168,707
特別損失		
減損損失	134,575	-
特別損失合計	134,575	-
税金等調整前中間純利益	57,234	168,707
法人税、住民税及び事業税	68,618	90,288
法人税等調整額	9,327	61,836
法人税等合計	59,290	28,452
中間純利益又は中間純損失()	2,056	140,255
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に 帰属する中間純損失()	2,056	140,255

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日)
中間純利益又は中間純損失()	2,056	140,255
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,420	100,974
為替換算調整勘定	112,947	158,592
その他の包括利益合計	115,367	259,566
中間包括利益	113,311	399,822
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	113,311	399,822
非支配株主に係る中間包括利益	-	-

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	57,234	168,707
減価償却費	332,763	316,066
減損損失	134,575	-
のれん償却額	9,255	-
賞与引当金の増減額（は減少）	129	739
役員賞与引当金の増減額（は減少）	2,390	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	6,425	19,915
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	13,990	50,106
固定資産売却損益（は益）	9,890	2,529
受取利息及び受取配当金	12,706	12,789
受取保険金	4,693	24,704
保険解約損益（は益）	26,316	11,466
支払利息	11,400	16,524
売上債権の増減額（は増加）	176,011	263,752
棚卸資産の増減額（は増加）	20,164	201,949
未収入金の増減額（は増加）	2,313	3,453
仕入債務の増減額（は減少）	139,764	21,467
未払金の増減額（は減少）	10,271	55,056
未払費用の増減額（は減少）	4,357	8,705
その他	52,439	75,924
小計	513,212	486,533
利息及び配当金の受取額	12,706	12,807
保険金の受取額	4,693	24,704
利息の支払額	11,607	16,427
法人税等の支払額	156,520	53,468
法人税等の還付額	0	51,329
営業活動によるキャッシュ・フロー	362,484	505,477
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	435,366	162,035
定期預金の払戻による収入	270,233	416,790
有形固定資産の取得による支出	115,909	270,757
有形固定資産の売却による収入	36,309	13,326
投資有価証券の取得による支出	1,858	2,481
無形固定資産の取得による支出	28,806	82,132
保険積立金の払戻による収入	19,870	26,101
その他	10,860	5,982
投資活動によるキャッシュ・フロー	266,389	67,168

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	-	200,000
長期借入れによる収入	150,000	-
長期借入金の返済による支出	318,146	258,673
ファイナンス・リース債務の返済による支出	20,465	19,294
社債の償還による支出	25,000	25,000
配当金の支払額	76,011	46,611
財務活動によるキャッシュ・フロー	289,622	549,579
現金及び現金同等物に係る換算差額	71,628	81,505
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	121,899	29,764
現金及び現金同等物の期首残高	3,896,113	3,988,737
現金及び現金同等物の中間期末残高	1 3,774,214	1 3,958,973

【注記事項】

(中間連結貸借対照表関係)

1 棚卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
商品及び製品	1,113,621千円	1,265,348千円
仕掛品	548,808千円	604,405千円
原材料及び貯蔵品	1,034,112千円	1,060,104千円

2 中間連結会計期間末日満期手形等

中間連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、当中間連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当中間連結会計期間末日満期手形等の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
受取手形	-千円	4,921千円
電子記録債権	-千円	19,141千円
電子記録債務	-千円	290,932千円

(中間連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
役員報酬	59,575千円	63,401千円
給与手当及び賞与	296,299千円	301,130千円
退職給付費用	14,295千円	15,259千円
役員退職慰労引当金繰入額	20,540千円	3,863千円
運搬費	131,287千円	129,976千円

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおり
であります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
現金及び預金	4,572,475千円	4,695,126千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	798,260千円	736,152千円
現金及び現金同等物	3,774,214千円	3,958,973千円

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間（自 2024年7月1日 至 2024年12月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年9月26日 定時株主総会	普通株式	75,934	15.0	2024年6月30日	2024年9月27日	利益剰余金

2 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年2月3日 取締役会	普通株式	50,622	10.0	2024年12月31日	2025年3月14日	利益剰余金

当中間連結会計期間（自 2025年7月1日 至 2025年12月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年9月25日 定時株主総会	普通株式	46,622	10.0	2025年6月30日	2025年9月26日	利益剰余金

2 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2026年1月30日 取締役会	普通株式	46,763	10.0	2025年12月31日	2026年3月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間（自 2024年7月1日 至 2024年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	日本	米国	タイ	中国	合計
売上高					
自動車用部品	3,310,659	707,463	1,066,870	161,065	5,246,058
非自動車用部品	1,011,924	-	44,437	825	1,057,187
顧客との契約から生じる収益	4,322,583	707,463	1,111,308	161,890	6,303,245
外部顧客への売上高	4,322,583	707,463	1,111,308	161,890	6,303,245
セグメント間の内部売上高又は振替高	406,233	-	124,882	-	531,115
計	4,728,816	707,463	1,236,190	161,890	6,834,360
セグメント利益又は損失()	3,421	23,947	158,871	9,906	121,596

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	121,596
セグメント間取引消去	9,982
中間連結損益計算書の営業利益	131,578

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					全社・消去	合計
	日本	米国	タイ	中国	計		
減損損失	-	-	-	134,575	134,575	-	134,575

当中期連結会計期間（自 2025年7月1日 至 2025年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	日本	米国	タイ	中国	インド	合計
売上高						
自動車用部品	3,162,817	812,470	1,177,460	71,341	-	5,224,089
非自動車用部品	926,239	4,587	29,789	530	-	961,147
顧客との契約から生じる収益	4,089,057	817,058	1,207,250	71,872	-	6,185,237
外部顧客への売上高	4,089,057	817,058	1,207,250	71,872	-	6,185,237
セグメント間の内部売上高又は振替高	506,721	-	135,772	-	-	642,493
計	4,595,778	817,058	1,343,022	71,872	-	6,827,730
セグメント利益又は損失()	59,974	48,269	191,006	28,802	2,375	51,584

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	51,584
セグメント間取引消去	7,946
中間連結損益計算書の営業利益	43,637

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり中間純利益又は 1 株当たり中間純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前中間連結会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日)
1 株当たり中間純利益又は 1 株当たり中間純損失()	0.41円	30.05円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失() (千円)	2,056	140,255
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失() (千円)	2,056	140,255
普通株式の期中平均株式数(株)	5,062,292	4,667,580

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、前中間連結会計期間は 1 株当たり中間純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、当中間連結会計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第64期（2025年 7月 1日から2026年 6月 30日まで）中間配当については、2026年 1月 30日開催の取締役会において、2025年12月31日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行う事を決議いたしました。

配当金の総額	46,763千円
1 株当たりの金額	10円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2026年 3月 13日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月12日

株式会社三ツ知
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ 名古屋事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	杉	浦	野	衣
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	牧	野	秀	俊

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社三ツ知の2025年7月1日から2026年6月30日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年7月1日から2025年12月31日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社三ツ知及び連結子会社の2025年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結

論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は期中レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。